

仲間とともに
納得して学び直す 心を開いて遊び語り合う 自信を取り戻す
学習の実践

目指す生徒像

—夢にむかって なりたい自分になる—
主体的に生きる・自立できる・自己実現できる生徒

目指す教職員像

- *一人一人の教職員自らが、豊かな感性とやわらかな心で生徒や保護者の困りに寄り添うことができる。
- *生徒の声なき心の声に耳を傾け、共に遊び語り、生徒一人一人に適した新たなかたちの「学び」と「育ち」の場の創造を、組織として実践できる教職員集団

1 教育計画

(1) 洛風の目指す教育

洛風は、「不登校という経験」がある生徒が「主体的に生きる・自立できる・自己実現できる」つまり、将来に向けて「どのように社会とかかわり、よりよい人生を送るか」を考え、「明るく元気に働く大人」への成長を支える学校です。

そのため、多くの人とかかわりや柔軟で多様な教育活動を通じて、生徒自らが「い・きが・い…生きがい・行きがい・活きがい」を見つけ、自己肯定感を高め、進路展望を拡大できるように、自立への動機付けのための具体的な働きかけを行います。

生徒が学ぶことの喜びを実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばすことのできるよう、自らをみつめ、次につなげる力を蓄えるためのたゆみない支援や働きかけを継続します。

(2) 不登校への基本的な考え方

不登校はもはや特別な状況下で起こるのでなく「どの子にも起こり得る」ととらえるとともに、洛風での学校生活が、「不登校という経験」を見つめ直し、そこに関わる子どもも大人も共に成長する機会（チャンス）となるようにと考えています。特に、不登校を「現実逃避・甘え」というような現象面だけのマイナスイメージとして捉えるのではなく、それに関わる人たちが、自分や家族の生き方、学校や教職員のあり方と向き合う時空として捉え、その休んでいる状況を直視することを大切にしていきたいと考えています。

また、子どもたちの「人格の涵養」や「生きる力の育成」のためにも、子どもたちが本来持っている「願い」（やりたい気持ち・感じる力）に目をむけ、自分の可能性に気づく「学び」、心が広がる「育ち」、仲間を認める・仲間に認められる「つながり」、自分の未来を拓く「挑み」、その一つ一つの成長の瞬間（とき）に、しっかりと、ほどよく、かかわっていきたいと考えています。

そして、じっくりと一人一人の「学ぶ意欲を取り戻す元気（エネルギー）の芽生え」「学校から社会へ通じる道（本当にやりたいこと）探し」「集団の中で自分を見つめる人間関係（つながり）づくり」といった歩みを支えていき、自立への動機づけとして「進路展望」を見出す「学習支援」を行うことで、社会とのつながりを形成し主体的に歩みだせるための援助を行いたいと考えます。

そのためにも、本校での学習の実践は、

仲間とともに

- | |
|----------------------|
| * 自分自身で納得して学び直す場 |
| * 心を開いて、遊び、語り合う育ちの場 |
| * 自信を取り戻すための実践的な体験の場 |

を意識的に作る必要があると考えています。

一人一人の成長に合わせた新たなかたちの「学び」と「育ち」の場を、子ども、保護者、洛風の教職員スタッフが共に、じっくりと手間暇かけて創造していくことを目指しています。

(3) 洛風の特徴

- ①教科等の新設や統合をはじめとする柔軟で特色ある教育課程を編成しています。
- ②基礎的・基本的な知識・技能の習得を大切に、少人数の集団での授業を行います。個別の学習教材を併用するなど、一人一人の段階に応じたきめ細かな補充的な学習を工夫するとともに、主体的・対話的な学びの実現を意識した授業の工夫を心がけます。
- ③民間団体や大学などと連携した体験活動や、京都の特性を活かした芸術や文化に触れる機会を大切に、多様な創造的活動を実施します。
- ④スクールカウンセラーを中心とする充実した教育相談体制、総合育成支援員や学生ボランティアの配備など、一人一人の子どもの立場に立った心のケアを実践します。
- ⑤一人一人の子どもたちが安心して過ごせる「居場所」をつくりだすために、お互いの「困りごと」を理解しあえる関係（つながり）を大切にできる「枠組み」づくりや個々の生徒に応じた指導対応のあり方を工夫します。

2. 生徒サポート体制

(1) 教育相談体制の充実

生徒自らが学ぼうとする気持ちを大切に、生徒の心の安定を図るためには、生徒や保護者に寄り添い、不安や悩みを共有し、その解消に向けた教育相談体制の整備を図る必要があります。そこで、洛風ではスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、総合育成支援員、学生ボランティア「洛風パル」の配置など、教職員と共に多くの目で生徒を見守る体制を整備しています。心のサインを受けとめる「チャンス」を逃さず、お互いの心に届く「メッセージ」を大切に、みんなで支えあう「チームワーク」を軸に相談機能の充実を目指しています。

また、個々の子どもの「困りごと」は、その背景がいじめや虐待の経験、発達課題など多様であるために、生徒指導、教育相談や特別支援の対応のあり方を共通理解できるように、日々の対話(情報交換)や研修を通して共有できるようにしています。子どもたちが、「この学校は安心だ」と思えることを常に意識し、「誰もが心地よい風を感じて生活できる洛風中学校」として、教職員も生徒も日々洛風をよりよくすることを考えていきます。

☆基本とする指導の在り方。

- 生徒の問題行動や課題を、個人の性格や意思・努力によるものではなく「困りごと」とであると捉えることができる「観る目・感性」を大切にします。
- スタッフ全員が、それぞれの生徒の担当であるという意識で生徒と関わり、多くのスタッフの目で、その生徒を多面的に捉え、率直に意見交換することを大切にします。
- その場面にあったよい表情（なんでもいえるあたたかい雰囲気やおだやかな態度）で子どもを見つめ、親身になって話に耳を傾け、適切な助言をするなど、生徒一人一人とのふれあいを大切にします。

スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）の役割

- ・教職員へのコンサルテーション及び研修指導，学校運営の指導助言をします。
- ・生徒へのサポート及び生徒保護者への相談活動をします。
- ・PTA及び「カウンセラーを囲む会～思春期・子育て・学び合い～」への支援をします。

総合育成支援員・学生ボランティア「洛風パル」の役割

- ・子どもの心の安定を図れるように寄り添うとともに，よりよい集団づくりの核として健康なモデルの役割をします。
- ・子どもの目線に立ったきめ細やかな学習支援を行います。

こどもパトナとの連携

生徒理解を基本としたカウンセリングと生徒指導の総合力を活かした活動を展開します。そのためには，カウンセリングセンター・生徒指導課と積極的に連携し，教育相談による支援はもとより，日常生活を行うにあたって人として守るべき社会的な規範などといった「枠組み」についても，生徒がその本質を理解し，行動できるよう徹底した指導を行います。また，不登校相談支援センターやふれあいの杜とは，施設面の共有等も含め転入学に係わる運営面や生徒指導面でも，積極的に連携し，共通理解を図っていきます。

*生徒指導課・不登校相談支援センター及び洛友中学校との連携（洛々ふれあい会議）

不登校相談支援センターとは，各ふれあいの杜の活動状況とも合わせて，日常的に不登校相談に関わる生徒の状況を共有し，アセスメントや対応の共通理解が図れるようにします。また，洛友中学校とも連携して，全市的な視野に立って不登校対応を考えていきます。

（２）保護者との積極的な連携

不登校の子どもたちの新たなかたちの「学び」と「育ち」の場を創造するには，子ども，保護者，教職員相互の協力が必要です。保護者の理解・協力と保護者への支援がうまくかみ合うことで「保護者自身の変容すること」も不可欠です。そのため，保護者が抱える子育ての不安や悩み，それぞれの経験を語り合い，共有できる場としての「カウンセラーを囲む会～思春期・子育て・学び合い～」の定期的な開催を実施しています。

（３）学校運営協議会との連携

本校は京都市立中学校に在籍している不登校を経験した生徒が転入学をしてくる。めまぐるしく変化する子どもたちを取り巻く社会情勢において，より子どもたちが「居場所」としての学校であるための教育活動を実践していくために，より専門的な指導を頂きながら，学校運営にアドバイスをさせていただく。

（４）大学，高校及び地域の学校との連携

将来への展望をより具体的にするために，体験を通して「今何を学ぶべきか」を考えることが重要です。また，職場体験や普通科・職業科・単位制・通信制など上級学校の様々な学びの形の実際に触れる機会をもつことが将来展望への動機付けになります。そのため，職場や大学・高校との連携や交流を深めます。また，子どもの状況に配慮しながら，地元の学校との連携をし，当該生徒の支援のみならず，不登校生徒全体への指導・支援の拡大を図れるようにします。

（５）ボランティアとの連携

野外活動や芸術関係など，様々な分野から地域や民間団体，ボランティアの協力を得て，柔軟で幅広い創造的で体験的な教育活動ができるようにします。